



種子 ～命を繋ぐ記憶～



はじめに

一億年以上に渡って地上を支配していたのはトクサやシダなどの孢子植物でしたが、現在の植物の90%以上は種子植物と言われます。種子は幼植物の発芽のための栄養分がすでに備わっていて、乾燥に強く、発芽の環境が整うまで休眠状態で過ごします。これらの性質を利用して、私たちは栄養価が高い小麦、米、トウモロコシなどの種子を穀物として食し、さまざまな種子を保存して農業を発展させました。

以前の農家は自家採種でしたが、より効率的な品種をめざして交配が進み、F1種 (Filial 1 hybrid) が登場しました。「一代交配種」「ハイブリッド」と呼ばれ、有能な2種類の種子の良いところを交配させますが、その良い形質は1代限りなので毎年種子を購入します。

そして、食料自給率の低い日本では、遺伝子組み換え作物が世界で一番多く輸入されています。

遺伝子組み換え作物は、種を超えて昆虫や動物の遺伝子を植物に組み込んだり、土壌細菌の遺伝子を植物に組み込んだりと遺伝子を書き換えます。これは自然界では起こり得ないことです。そして、それを作ったアグロバイオ(農業関連バイオテクノロジー)企業は遺伝子を組み換えた植物を新品種として特許を取得し独占しています。植物も私たちと同じ命ある存在なのに、尊厳を無視した行為だと思いませんか? また、遺伝子組み換え作物は食べ続けて安全なのか、という質問がよくありますが、安全だけには留まらない大きな問題を含んでいるのです。

F1種と固定種

スーパーの野菜売り場に行くと見栄えが良くて均一なトウモロコシ、トマト、タマネギ、キャベツ、ダイコンなどが並んでいます。これらのほとんどがF1種で、均一で大量生産、大量輸送、周年供給に向きます。基本的なF1種の作り方は「除雄」という雄しべを

除く方法があり、花が咲く前につぼみを開いてその雄しべを除去し雌しべだけにしてから、別品種の雄しべの花粉で受粉させます。今では「除雄」はせず、雄性不稔(雄性器官である花粉や胚のうが異常で、正常に花粉形成ができない現象)という性質を利用する方法が主流です。これは自家受粉しないため、昆虫などを利用して他家受粉させることができます。雄性不稔の野菜を食べ続けることで、安全性に疑問を投げかける意見もあります。また、F1種が主流になったことから品質に偏りが出て多様性がなくなったこと、その地域ならではの農作物の風味や特徴が失われるようになったことなどが挙げられます。

一方、固定種は自家採種し、親から子へ、子から孫へと代々同じ形質が受け継がれたものです。特徴としてその品種が固定された土地の気候・風土に適応していること、遺伝的多様性が大きく品種内でも収穫時期や大きさや形などにばらつきがあること。風味豊かな農作物が多いのですが大量生産には向きません。また、種子を取るために収穫後も作業が続きます。最近では伝統野菜がブランド化されたために、各地の固定種が見直されて栽培されるようになったのは嬉しいことです。

失われる多様性

2019年6月に、人間の活動により約100万種の動植物が絶滅危機にさらされていると警告する報告書が出されたことは記憶に新しいと思います。今日の農業が「固定種」から「F1種」に変化したことにより、農業から生物多様性が失われるようになりました。一部の優良品種だけが好まれ、作付けされて単一栽培化が進んでいます。一例としてダイコンの品種は100種類以上あったのですが、市場にでる9割はアオクビダイコンと言われています。

単一栽培化の危険性を示す例として、1840年代のアイルランドで起こった5年間続いたジャガイモ飢饉があります。小作農家は貧農からジャガイモの栽培を始め、人口の3割がジャガイモを食料としていたのですが、ジャガイモの疫病が発生し全土に広がりました。救済措置に問題があり、ジャガイモを主食としていた推定100万人以上の餓死者を出し、国外への移民は100万人といわれています。

後に、当時ランパー種というジャガイモの品種が単一栽培されており、その品種は疫病の抵抗性が特に弱かったことがわかりました。元々ジャガイモが主食の原産地のアンデスでは、一つの畑にいくつもの品種を混ぜて栽培する習慣が伝統的に行われて、特定の病原菌による凶作を防いでいたそうです。今ではペルーのジャガイモの野生種から、この病気の抵抗性をもつ品種がみつき疫病を防いでいます。

そして、植物の種子を保存するシードバンク(種子銀行)やジーンバンク(遺伝子銀行)の必要性が認識されるようになりました。ジーンバンクは、生物多

様性の保全を目的として、野生及び栽培植物の種子や、野生及び飼育動物の精子や卵子、微生物など、さまざまな遺伝資源を収集し保存しています。



遺伝子組み換え作物(GMO)

遺伝子組み換えで多いのは「除草剤耐性」と「害虫抵抗性」を持つ作物です。「除草剤耐性」は除草剤をかけても枯れない品種を作り出し、その種子と除草剤をセットで売り、除草剤を散布すると雑草だけが枯れるのです。この「ラウンドアップ」除草剤はベトナム戦争で使われた「枯葉剤」を作ったモンサント(注1)が1974年に発売、主成分はグリホサートです。

また「害虫抵抗性」は土壌細菌の遺伝子を使って、害虫が作物の葉などを食べると腸を破壊するというものです。今では耐性を付けて、除草剤をかけても枯れない雑草や死なないスーパー害虫が出現しているそうです。日本では除草剤を撒いても枯れない大豆や、葉を食べると害虫が死んでしまうトウモロコシなどは輸入後に加工され、遺伝子組み換え表示がないので多くの人は知らずに食べています。豆腐などの表示は混入が5%未満なら、「遺伝子組み換えでない」と表示ができます。食の安全性はもちろんのこと、土壌劣化や地下水汚染を始め環境への影響や持続可能な農業への弊害は計り知れません。

さらにアグロバイオ企業は「ターミネーター技術」(注2)、自殺種子技術を使った種子までも誕生させました。種子に毒素タンパクを作る遺伝子を組み込んでおき、2代目の発芽の時にその毒素タンパクが働きます。2代目に自殺する情報が組み込まれているのです。米国農務省とデルタ&パインランド社(後にモンサント社が買収)が開発し、1998年に特許を得ましたが、これは世界の500以上の組織が国際的禁止を求めました。それにより応用化はしないと発表されましたが、2001年、アメリカ農務省はモンサントの綿花にターミネーター技術の応用化を認めたそうです。

また、ターミネーター技術を進化させた、トレーター技術(注3)を開発しています。これは植物が本来持つ、発芽、実り、耐病性などの遺伝子をブロッ

くし、開発企業が販売する薬剤をブロック解除剤として使わない限り、作動しないというものです。植物を物としか見ない、信じられないような現状の中に私たちはいるのです。

さらに、遺伝子組み換えでは、2018年、米カリフォルニア州の裁判でモンサント社に対して、同社の除草剤「ラウンドアップ」で癌になったと訴えた男性に約320億円を支払うように命じました。証拠として出された内部の機密資料で、同社は十数年前から除草剤の主成分グリホサートで癌になることがわかっていたのです。これは世界中で使われ、内部告発者が危険性を訴え続けてきたそうです。今年には約2200億円の支払いを命じる評決があり、3回目の敗訴となっています。世界中で使用禁止、販売禁止になっている中で、日本は安全としてジェネリック品(初代の製品は特許が切れた)が売られています。

ダマヌールでは

ダマヌールでは創立当初から植物に敬意を持って交流してきました。植物の実験や研究も盛んに行われていて、それらの成果からダマヌール日本では、実際に長年実験に関わったフェニーチェによる「植物とのコンタクト」セミナーを提供しています。

1970年代には植物が作り出す生体電流を検出する機械を応用して、植物がランプを点灯させたり、ドアを開閉させたり、植物が運転する自動車、植物の音楽などの研究を行っていました。さまざまな研究により、植物は知恵や感情や記憶を持つこと、学習能力があることなどが分かりました。

また、あることを親世代に教えて学んだら、その種子から育った子世代は、同様なことを身につけるのが早いことが実験や研究からわかっています。さらに、植物は世話をしてくれる人などと親密な関係をつくることがあります。植物には一人ひとりのオーラやマインドマップ(考え)を識別する能力があります。その人の気持ちや考えていることがわかるのです。

私たちは人間という種の集合意識と繋がることはできませんが、植物は個々でありながら植物の集合意識と常に繋がっています。そして、個々の体験が、その都度集合意識に付加価値として加えられ蓄積されて次世代に引き継がれていきます。ですから、芽を出し生まれたときは、ゼロからの出発ではないのです。

また、私たちは動植物などの命を食べることで肉体の滋養を得ていますが、私たちの精神的滋養となるのは、動植物が幼少期から成長していく環境の中で体験した豊かさと、肯定的な体験の記憶という情報(エネルギー)です。例えば、愛情をかけて丁寧に育てれば、動植物はその感情や思いを

受け止めます。こうして育った動植物は私たちにとってバランスの良い精神的な滋養になります。

そして、私たちは精神的進化のために人生を生き、同時に他の種、例えば植物の中でもさまざまな体験をしています(秘教的物理学セミナーで説明されます)。その体験が人に苦しみや病を与え自殺するという破壊をもたらすような体験だったら…と想像してみてください。

さらに、私たちは肉体的にも精神的にも、大きな自然の循環の中で生かされています。自然の精霊を思い出しましょう。自然の精霊はエネルギー体で存在し、植物と共存して、植物が成長し花が咲くために必要なサポートをしています。自然の中の精霊たちの役割を知らず、企業のエゴのために不自然な植物を作り出すことは、自然の循環を断ち切り、命の進化・拡大という原理に逆行しています。



ダマヌールの取り組み

ダマヌールでは遺伝子組み換え農業には反対の立場をとり、早い時期から植物の多様性の保護と種子生産における自給自足を目的として、種子銀行プロジェクトに取り組み、今ではピエモンテ州一の種子銀行を実現しています。そして、地元のさまざまな農産物加工の研究、種子の自家採種までの栽培、種子の保存などが行われています。また、ダマヌールの農民たちは地域に出て、さまざまなシードセーバーの協会、特に農民文明協会と協力して、地元及び地域レベルでの作業と交換のグループを作っています。

ポルタデラテッラ(大地の扉)のコミュニティーでは、種子を蒔いて収穫するまでのあいだは神殿と同じフリークエンスのエネルギーで育てられ、そのエネルギーが宿ります。野菜たちが命の体験の豊かさを持ち、それをいただくことで私たちの中に引き継がれ、精神的進化の道を共に歩んでいくのです。

また、パーマカルチャーを進めているコミュニティーでは自家採種をし、果樹園プロジェクトではサクランボ、アンズ、リンゴ、モモ、ザクロ、ヘーゼルナッツなど多くの果樹を育てています。

最後に

種子を取り巻く現状は厳しいものがありますが、急速に研究が進んだ、ゲノム編集食物をご存知でしょうか？それは特定の遺伝子を壊してつくられますが、標的外の遺伝子を破壊する作用などが報告されているにも関わらず、外来遺伝子が残らないゲノム編集生物(作物、家畜、魚など)は日本では規制対象外となっています。このままだと環境影響評価、食品安全審査、食品表示などは無しで、近々販売されることになるでしょう。

私たちにできることは、種子や食べ物に関心を持つこと、すべての命に愛と尊厳を持つこと、生物多様性が基本であること、自然の循環と命の進化・拡大に至る施策を支援すること、精神性を高めること…など、永続可能な未来はグローバル化ではないのです。

また、良識と勇気ある内部告発者たちが危険性を訴えたように、新たな証拠が大衆に露見して命の搾取が止まるようなシンクロニティーと、命を繋ぐ記憶としての種子が豊かな体験を持てるような、そんな永続可能な農業の拡大のシンクロニティーを祈りたいと思います。ポジティブで明るい未来を描

きましょう。

あなたも私たちと一緒に祈り、行動し、こんなシンクロニティーを引き寄せてみませんか。

(注1) 多国籍バイオ化学メーカー。2008年、遺伝子組み換え作物の種子の世界シェアは90%だった。2018年6月、バイエル社による買収・吸収が完了した。

(注2) 英語のterminator「終焉、抹殺、おしまいにする」という意味。カナダの遺伝子組み換えに警鐘をならす組織(RAFI、国際農業促進基金)が名付けた。

(注3) 英語のtratorから「裏切り者、売国奴」という意味。RAFIが名付けた。

【参考】

※日本で多く輸入される GM4作物 //トウモロコシ:害虫抵抗性、除草剤耐性、高リン形質、乾燥耐性、耐熱性α-、アミラーゼ産生。ナタネ: 除草剤耐性、雄性不稔性、稔性回復性。ワタ: 害虫抵抗性、除草剤耐性。ダイズ: 除草剤耐性、害虫抵抗性、高オレイン酸形質、アテアリン酸産生など。また、日本のトウモロコシ・ナタネ・ワタの自給率は0%、ダイズは7%とされている。

※2018年、中国では父のエイズウイルスの耐性をつけるために、ゲノム編集をした双子が生まれた。だが、西ナイルウイルスに感染しやすい、インフルエンザが重症化しやすい、脳への影響などの副作用が分かっている。ゲノム編集は次世代への影響、医療への展開、デザインベビー問題等も懸念されている。

トリダクナ先生 訪日

トリダクナ先生を迎えて

3年目の「ヒーラーコース」の卒業論文のご指導のために、7月、トリダクナ先生が来日していただきました。今年のダマヌールの「夏至の儀式」は、イタリアで夏至、オーストラリアでは冬至にあたり、2つの儀式は40年ぶりに同時に行われ、オーストラリアのインストラクターでもあられるトリダクナ先生は、オーストラリア経由で大荷物を抱えての来日でした。

イタリアダマヌールでの「ヒーラーコース」では、いろいろな分野でのカリキュラムがあり、たくさんの先生が教えてくださいます。1年目のカリキュラムで要素についてトリダクナ先生が教えてくださり、また実技の授業でトリダクナ先生からのフィードバックは、私の前世のことまでリーディングされているかのよう



で、私の魂が感じていることや望みをご指摘され、私の中でトリダクナ先生はシャーマン的存在の方でした。

その凄い先生のご指導なので緊張していましたが、私たちグループ全員を温かく、それでいて自然な感じで包んでくださり、一人ひ

とりに誠実に何一つ否定されることなく導いてくださいました。卒論のご指導を通して、改めて「プラノセラピー」の素晴らしさも認識しましたし、日常生活の中で困っている人や、自分の考えに縛られて変化できずにいる人に多

くの知恵やアイデアを提供され、相談者はまるでセラピーを受けているかのようで、一緒にいるみんなも涙し、トリダクナ先生の指導は愛と深い感動の連続でした。

また、今回、トリダクナ先生が京都に行かれるのに同行させていただいたのですが、お寺や神社でどんな小さな神さまにも礼儀正しくひざまづかれ、丁寧にお祈りを捧げておられました。京都の山々や竹林、滝、石に、そして食べ物やお茶、一つひとつに感動され喜びを感じていらっしゃいました。

私には見えないものと交流されているトリダクナ先生、チャミングなどところもおありで本当に素晴らしい先生です。皆さまにも、いつか、トリダクナ先生をご紹介できたら... (J.M.)



トリダクナ先生

ヒーラーだより

プラノテラピーを続けて

すい臓がんになり半年経過して、闘病中の社員に1回目のプラノテラピーを行う。彼は体力気力とも衰えて、抗がん剤投与で頭はすっかり脱毛状態だった。彼の目は効果があるのかと半信半疑で訴えていた。

翌週、彼の家に行くと、彼も妻も「頭に触ってみて」と言う。触ると薄い毛が生えていた。彼らも私も大喜び。そして、2回目、3回目と毎週プラノテラピーを行う。見事に毛は生えだして1センチも伸びてきた。また彼も驚くほど元気になっている。食欲も出てきた。そのうちに、彼はベットから起き上がり、家の中でつたい歩きを始めた。

6週続ける頃から、来てもらうのは申し訳ないからと、妻の運転で会社へプラノテラピーを受けに来るようになれるほど体力も回復した。他の社員たちが大喜びで玄関まで迎えに出た。プラノテラピーを始めてから2ヶ月近く経過し、彼は再検査で入院した。癌の転移が見つかった。彼と妻はまた沈んでしまった。半月後退院したので、私は彼の家に行き、プラノテラピーを行うが、彼は生きる希望を失い気力も衰えて行った。

彼とは6ヶ月のプラノテラピーを通しての関わりだった。だが、彼はダマヌールのニュースレターを読んで、ダマヌールに興味を持ってくれた。一人ひとりの死の時間は、生まれた時から決まっている。

彼らと、生きることや死について話しながら、肉体は無くなっても魂の旅はずっと続けて行くこと等々をお互いに語り合い、濃密な時間を共有できたことは嬉しい体験になった。彼の魂の旅立ちを祈りながら、プラノテラピーを勉強することにチャレンジして良かったと思った。(カプリコロノ)

ダマヌールのヒーリング プラノテラピー

プラノテラピーはダマヌールの自然医学の中でも基礎となる安全でパワフルなヒーリングです。

オーラ、肉体、魂の全てに良い影響を及ぼし、特にバランスの崩れている部分に集中して流れ、全体のバランスを取り戻します。体も心も美しく健康でいたい、スピリチュアルな成長がしたい、夢を実現させたい方にプラノテラピーをお勧めします。

プラノテラピーは、神戸センターとイピアルの他、各地で受けられます。「体験会」も各地で開催しています。詳細は下記までお問い合わせください。

●プラノテラピーに関するお問合せ先

ダマヌール日本神戸センター
0798-23-9161
damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp
ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル
052-683-8233
jppal@crux.ocn.ne.jp

ぽぽろニュース

ポポロ(精神的民族)のお祭り

2019年8月25日、ポポロのお祭りを岐阜と東京で開催しました。ダマヌール日本、ダマヌール東京、一般のポポロの方々も参加され、ポポロの意義を確認して交流を深めました。岐阜は芸術を共同し、東京は木とのコンタクトで、それぞれに充実した時を過ごしました。この民族は秘教的な知識や人生哲学を学びながら行動することで、精神的な進化をめざし、多種多様な生命が調和的に共存できる世界の実現をめざしています。共通の理念を持つ方なら、どなたにも開かれています。あなたもポポロに参加しませんか？

岡山県の木意識の活性化

2019年9月22日、岡山のKさんから頼まれていた木の活性化に、ガロ、カズアリオ、コーギー、トンノで出向きました。

ダマヌールのヒーラーは植物の世界との協働を目指して、木々へのヒーリングも積極的に行なっています。Kさんの案内で活性化を行い、土砂降りの中で樹齢400年のマツの木にプラノテラピーを行いました。

すると、木からもみんなの中からも「ありがとう」の言葉が溢れでて感情が込み上げ、喜びで満たされました。

帰路に着く頃には、土砂降りがなかったかのよう晴れ、木からパワーをもらって元気に帰宅しました。



角力取山古墳の老松

セミナー体験記

◇「夢の道」を受講して

今回の受講では、夢の多次元のアプローチについて学びました。私は割と夢は覚えていて、夢の体験の中では、過去生の自分の姿や過去生で体験した出来事を体験したり、今生のアイデンティティから自由になった夢を見るほうですが、この講義では夢を方向付けたり、古代の人たちが夢を使って現実をよりよく生きることに使っていたことを知りました。

潜在意識のトラウマが象徴によって呼び起こされたり、カルロス・カスタネダの夢見については知っていたので、今回の受講が終わって、夢日記をつけることと、前日の整理の時間を作ることを始めましたが、期待が入った途端に自分が見たいような夢が見られなかったり、目が覚める最後の夢しか覚えていられなくなったり、一進一退しながら過ごしています。

2日目は、らせんを使って活性化した後にセルフティックペインティングを見ました。初めての体験でし

たが、らせんの中ではサトルなエネルギーによって体の内部をエネルギーが上昇していき、肉体のすぐ外側のオーラにまで意識が拡大したのを体感しました。セルフティックペインティングが動いたり、まったく別の次元にアクセスしたりと貴重な体験をしました。すごい絵があったものだと深い感銘を受けました。

私は割と夢の次元よりは物質次元での神秘体験が多く、人生の岐路に立たされたときに光の存在が目の前に現れてメッセージを伝えてきたり、歴史的な建物に入ると別次元の映像を見たり、アカシヤを通してパラレルワールドにアクセスすることや意識的にリモートビューイングやバイロケーションをすることができますが、もっと夢の次元を意識的に体験したいと思うようになりました。

次に受講するまでにしっかりとやりこんで、また受講したいと思います。(E.S)

来日セミナー講師紹介



アンティロペ・ヴェルベナ
(Antilope Verbena)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌールのスピリチュアルヒーラー。20年以上に渡り、ダマヌールのスピリチュアルヒーラーの学校の運営指導に関わる。セルフ学の研究によって実現したセルフティックなキャビンを使っ

たヒーリングやセルフティックなペンデュラムの専門家であり、健康問題の解決に向けた的確なアドバイスには定評があります。また、時に関する研究者で、タイムトラベルやスペーストラベルの実験を行っていた時期は、自ら信じがたい体験も持つ。

* フェニーチェとアンティロペのヒーリングが受けられます。詳しくは本号7ページをご覧ください。



フェニーチェ・フェルチェ
(Fenice Felce)

ナチュラルセラピー・ホリスティック健康科学博士。ダマヌール創立メンバーの一人。スピリチュアルヒーラー。秘教的物理学・ダウジング・インナーハーモニゼーション・セルフ学的催眠療法・アストラトラベルのス

ペシャリスト、古代エジプト哲学とミステリーの研究者として国際的に活躍しています。その豊かな研究体験と深い理解と幅広い知識にあふれた講演は常に多くの参加者を魅了してやみません。

フェニーチェ・フェルチェの講演が
日本で初めて、本になりました！

タイトルは
「タイムトラベルからみたアトランティス」
2019年9月10日に、ヒカルランド社より出版

四六版ハード



この本は、2018年10月16日に東京で開催され、好評を博した「高坂和導祭」での講演内容を中心にまとめられています。これらは、竹内文書の研究を引き継いだ三和導代氏の元に届いた、ダマヌールのスピリチュアルリーダー、ファルコからの1通の手紙がきっかけとなり、実現しました。

さて、本の内容は、アトランティスと古代エジプトについて、また、地球の古代文明と人類の歴史についてなど、フェニーチェがたっぷりと語っています。最初に行った実際のタイムトラベルの驚きのエピソードや若き日のフェニーチェがファルコと共にシンクロニックラインを探す旅に出かけた大冒険がドキドキしながら読め、貴重なエピソードが満載です。さらに、なぜダマヌールが今ここでコミュニティーを実践しているのか、根源的な謎に迫ることができます。ぜひお手にとってお読みください！

★ご購入他、本に関するお問合わせは book@damanhur.jp までどうぞ

来日セミナースケジュール 2019年11月以降

2019年11月のミニ講演会

- ★【地球のシンクロニックライン】
in 名古屋 ミニ講演会
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：11月28日(木)
時間：18:30～20:30
場所：ウインクあいち 1108号室
交「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：3,000円

2019年11月ワンデイセミナー

- ★【宇宙の惑星の文明】
～さまざまな惑星にさまざまなエイリアンの文明が発達している事実を信じますか?～
in 東京 ワンデイセミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日時：11月17日(日) 10:00～18:00
場所：大田区産業プラザPiO D会議室
交「京急蒲田」駅より徒歩3分
参加費：20,000円
お問合せ・お申込み先：
ダマヌール日本Tokyoセミナー事務局 まで
mail : kanto@damanhur.jp

2019年12月のセミナー

- ★【セミテンポラーレ I レベル】
in 名古屋 2日間セミナー
- 過去の記憶を書き換え、時間のタネによって、現在の人生と未来を変容させる
ダマヌール独自のマジックなテクノロジーです。
- 講師：アンティロペ・ヴェルベナ
開催日：12月7日(土)8日(日) **申込締切 11月25日**
時間：10:00～18:00
場所：ウインクあいち 1107号室
交「名古屋駅」より徒歩5分
参加費：45,000円 (11/10までの事前振込 44,000円)

グループヒーリング・個人セッション

- ◇ アンティロペの
パーソナルヒーリング・フルセッション
プラノセラピーとステイロセルフ+ロズリッティエーノ
とビューティーのプラノセラピーのフルセッション
12月6日(金) 三重県にて 限定8名 お一人約1時間
- ◆ フェニーチェのグループヒーリング
パワフルなグループのプラノセラピー
12月7日(土) セミナー終了後、同会場にて
* フェニーチェの個人リーディングも来日時には
ご要望に応じます。別途、ご相談ください。
- ◇ アンティロペの個人セッション
ステイロセルフ+ロズリッティエーノ
またはビューティーのプラノセラピー
12月8日(日) セミナー終了後、同会場にて
いずれも要予約。詳細はお問合せください。
人数に限りあり。お早目にお申込みください。

2020年 過去生リサーチ

- ★【過去生リサーチ】
in 京都 1泊2日のセミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：11月21日(土)22日(日)
時間：21日10:00 開始
22日18:00 終了予定
場所：関西セミナーハウス(修学院きらら山荘)
- このセミナーは1泊2日のセミナーで、宿泊先も
関西セミナーハウスになります。
- 交 叡山電鉄「修学院駅」下車徒歩15分
または
地下鉄烏丸線「北山駅」からタクシーで10分
参加費：65,000円(予定)
*ダマヌールでの事前調査費を含む
*宿泊料金別途

2020年 セミナー予定

- ★【螺旋の科学 セルフ学】 2019年10月現在
in 東京 ワンデイセミナー
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：2月11日(火祝)
時間：10:00～18:00
場所：東京都内
- ★【テーマ調整中】
in 名古屋 2日間セミナー
日本で初開催のセミナーを予定。乞うご期待!
- 講師：フェニーチェ・フェルチェ
開催日：3月7日(土)8日(日)
時間：両日とも 10:00～18:00
場所：名古屋市中心小企業振興会館(吹上ホール)

ダマヌール日本は、世界中にあるダマヌールのセンターの一つとして持続可能な社会を実現するための情報、より良く生きるための精神的知識やヒーリングを日本にもたすために1999年より活動しています。

来日セミナー・現地体験セミナー等の開催 / メールマガジン・ニュースレターの発行 / ダマヌール関連書籍やCDの紹介 / クラシックセルフの紹介 / ダマヌールのヒーリング / 樹の意識の活性化 / ダマヌールを知る会・セルフティックペインティングを観る会等の開催

● お問合せ・お申込み先

- ダマヌール日本神戸センター
0798-23-9161
damanhur-kobe@s5.dion.ne.jp
- ダマヌール日本支援ネットワーク イピアル
052-683-8233
jpjal@crux.ocn.ne.jp
- HP : www.damanhur.jp
FB : https://www.facebook.com/damanhur.jp

メールマガジン毎週配信! お申込みはHPから

ダマヌールのコミック「記憶のトランク」より (9)

ダマヌールの建設が始まりました・・・

①

適切な道具を使って物質の中でマジックを実践する時だ。

魔法の棒？

水晶球？

もちろん！ほら、今私たちに必要なマジックな道具だ。

私たちの哲学は行動に基づいている。そして今必要なのは美しく掃除することださ！

この地から人類の進化を妨げるすべてのものとの大戦が始まるだろう。私たちは形の中に分け入り、物質の中にはまり込まなければならない。

はまり込むために、僕は自分を突き落としたよ・・・

常に小さいことと大きいことの一致がある：このデトリリーを掃除しきれいにするために私たちがやっている仕事は、まるで同じことを私たちの内面でもやっているかのようだ。私たちの最高のエネルギーを解放するためにね。結局は、私たちは皆宇宙の兄弟なんだよ

②

このように、何人かがセンターやコースに献身的に取り組む間、他の人たちは未来のダマヌールの建設に邁進し始めました。

この仕事は1977年に始まりました。オデュッセイアのようなものでした。

建築家さん、もう一度お尋ねします...

どうぞ、おっしゃってください。

確かなんだろうな...

安心しろよ、彼は熟練したプロだ！

僕たちは1階だけで住居が11軒の最先端の設計がほしいのです。

信用している建築業者はありますか？

どなたか？ あなたたちにどモテンで最高の会社をお届けしましょう。代わりにワンフロアに1軒の11階建てはどうですか？

代わりにワンフロアに1軒の11階建てはどうですか？

1階だけで11軒と言いましたよ！

と・て・も・有・能・な・人々です。

③

オデュッセイアどころか、黙示録でした！

現場監督うう...だれか現場監督を見たか？現場監督はいるのか？

ああ

どうして僕は杭を打ってその上に建てることを考えなかったのかな？今それを彼らに提案しよう。

トレイラー付トラックと云っていたのに、トレイラーはどこだ？

次から次へと不都合が。

やっつと一日が終わった。もうくたくただ。

もうー

僕はもう履く長靴がないよ。

6カ月が経過し...

建築家さん、ここは何したの？煙突のパイプはどこ？

でもここでは喫煙できないと言いましたよね！

ちゃんやり逃げたいなら、この家を私たちが建てなければならぬわ。

ごいつら狂ってる。ずっとここで働くのか？

僕は木工職人になるように学びたいな。

僕は石灰を作ることはできるよ。

さあ、僕は土曜日と日曜日に来ることが出来る。

④

私たちは会社との契約を打ち切り、すべて自分たちで家を建てました。何人かはすでに熟練していました...

...現場で木工職人になることを学んだ人もいました...

...大工...

...配管工...

本当に全部自分たちでやったと言いたいよね？

何人かの地元の職人に助けをもらいましたが、ほとんどは私たちがやりました。私たちにあって、それはまさに選択です：やりながら学び、試しながら熟達するのです。

次に彼らが取り組んだことは・・・